資料１

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館　資料の概要

秩父宮記念スポーツ博物館は、「スポーツの宮様」として親しまれ、二十世紀前半の日本のスポーツ振興に多大な功績があった秩父宮殿下の御功績を記念するため、１９６４年の東京オリンピックの主会場となった旧国立競技場の施設内に、１９５９年１月に開設された日本で唯一のスポーツ総合博物館です。以後、半世紀以上にわたり日本のスポーツの歴史と文化を普及するため、あらゆるスポーツ関係資料の収集・保存・公開を行ってきました。また、併設の図書館は、スポーツに関する書籍、雑誌等を揃えた専門図書館として、一般の愛好者から研究者まで多くの方に利用されてきました。

博物館・図書館は、国立競技場建設工事に伴い、２０１４年５月から長期休館中のため、公開を休止しています。また、２０１８年４月から、収蔵資料の集中整理作業等に伴い、博物館、図書館ともに対外的なサービスを休止しています。

■綾瀬事務所：〒120-0005 東京都足立区綾瀬 6-11-17
TEL 03-5849-5400 / FAX 03-3629-1660
ホームページ http://www.jpnsport.go.jp/muse/
メールアドレス sports-museum@jpnsport.go.jp

■博物館

収蔵資料：約 60,000 件 （秩父宮雍仁親王殿下関係資料 約 100 件、
オリンピック関係資料 約 11,000 件、日本のスポーツ史関連資料 約 48,000 件）

■図書館

所蔵資料：約 165,000 冊（図書 約 40,000 冊：和書 約 36,000 冊、洋書 約 4,000 冊、
雑誌 約 125,000 冊：和雑誌 約 100,000 冊、洋雑誌 約 25,000 冊）

※上記に加え、大会プログラム・パンフレット類が約 9,000 冊、新聞が 16 誌（保存箱 725 個）あり。

博物館収蔵資料の一例

1 第９回オリンピックアムステルダム大会（1928 年）「金メダル」 織田幹雄選手（3 段跳）(P.3)
2 第 11 回オリンピックベルリン大会（1936 年）「友情のメダル」 大江秀雄（棒高跳び）(P.3)
3 第 18 回オリンピック東京大会（1964 年）「ポスター」(P.4)
4 第１回～第 72 回国民体育大会 「参加メダル」(P.9)

図書館所蔵資料の一例

1 明治 『内外遊戯全書』全 15 編 遠山熙, 稲田實ほか著 1899-1900 年 (P.11)
2 明治 『Outdoor Games』F.W. Strange 著 1883 年 (P.11)
3 大正 『アサヒ・スポーツ』1 巻 1 号-21 巻 11 号 朝日新聞社出版 1923.3-1943.6 年 (P.11)
4 昭和 『傷兵慰問體育運動大會パンフレット』主催：大日本體育協會（1939 年）(P.11)

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館　収蔵品および蔵書

平成30年7月現在

1. 博物館

収蔵品件数 ※1

（件）

寄贈	寄託	購入	その他	総数
45,114	2,376	389	10,749※2	**58,628**

※1,4 台帳登録上の重複と一括資料の詳細を精査し、更新した件数
※2　受入不明で調査中の件数
※3　平成29年6月以降に返還した件数

寄託品返還件数 ※3

返還
256

（件）

収蔵品内訳 ※4

（件）

秩父宮雍仁親王殿下 関係資料	オリンピック関係資料	日本のスポーツ史 （明治期～現代）関連資料
92	10,543	47,993

資料種別

種別		資料例
大型のため、収蔵棚外に平置きで保管	用具	体操用具（明治期）、スキー板、バット、ボート・オール、リュージュ、鞍馬、ボール、武具
	模型	明治神宮外苑競技場、国立競技場、国立代々木競技場
	彫刻	秩父宮殿下胸像、ラグビー群像、国立競技場マンホール
	絵画	1936年ベルリンオリンピック芸術競技　銀メダル絵画
	写真（大型額）	秩父宮殿下御写真
	機器	国立競技場　電光掲示板照明、陸上競技記録タイプライター
箱に収めて、収蔵棚で保管	メダル類	オリンピック日本初獲得メダル（熊谷一弥）、日本初金メダル（織田幹雄）、友情のメダル（大江季雄）
	優勝カップ・トロフィー	秩父宮杯（スキー）、全米水上選手権 優勝トロフィー
	旗	秩父宮殿下下賜　日本選手団初代日の丸、全国高校サッカー　優勝旗
	賞状	織田幹雄・古橋廣之進など世界記録証
	衣類	ブレザー、競技ウェア、トレーニングウェア、シューズ、蹴鞠・流鏑馬装束
	ポスター	オリンピックポスター、国体ポスター、明治神宮外苑競技大会、極東競技大会、アジア競技大会
	文書資料	1964年東京オリンピック　組織委員会等文書資料

2. 図書館

図書　件数 ※5

（冊）

図書	雑誌	総数
40,000	125,000	165,000

※5　平成29年6月以降、件数の更新はなし

主な貴重書

年代	書名,巻次,叢書名	著者名	出版年
江戸	当世相撲金剛伝	立川焉馬作, 歌川豊国画	1844[天保15]
明治	體操書　全5巻＋附録	ベルギュ著 石橋好一譯	1874
明治	繪本體操圖		1878?[明治10年？]
明治	Outdoor Games	F.W. Strange	1883
明治	西洋戸外遊戯法	下村泰大編	1885.3
明治	文武叢誌 合冊:第1-10号		1893.11-1894.8
明治	内外遊戯全書　全15編	遠山熙著、稲田實著ほか	1899-1900
大正	萬国體育競技會概況 偕行社記事　第461號附録	椎川龜五郎編輯	1913

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料の代表例



◆日本初の金メダル　織田幹雄（三段跳）
第９回アムステルダム大会／ 1928 年

このメダルは織田選手が第９回アムステルダム大会で、15m21cm の記録で獲得した金メダルである。入賞メダルのデザインは、イタリア人ジュゼッペ・カシオーリの作品であり、2000 年シドニー大会まで、このデザインが用いられた。



◆友情のメダル　西田修平、大江秀雄（棒高跳）
第 11 回ベルリン大会／ 1936 年

このメダルは大江選手のものである。第11 回ベルリン大会で、２位３位決定戦を日本人同士で争うことをやめた西田選手と大江選手が帰国後に銀メダルと銅メダルを半分ずつ分け合った、という友情物語は、国語の教科書や道徳の副読本にも載るくらい有名である。

第 18 回東京大会(1964 年）の収蔵資料



◆金メダル（裏）



銀メダル（表）



銅メダル（表）

（金銀銅メダルのデザインは、第９回アムステルダム大会で使用されたものを基に、小柴利孝が原型を製作し、大蔵省造幣局が製造した。メダルを吊るす紐には、西陣織の５色の絹織が使われた）

第 18 回東京大会(1964 年) の収蔵資料



◆ディプロマ

（原弘デザイン）



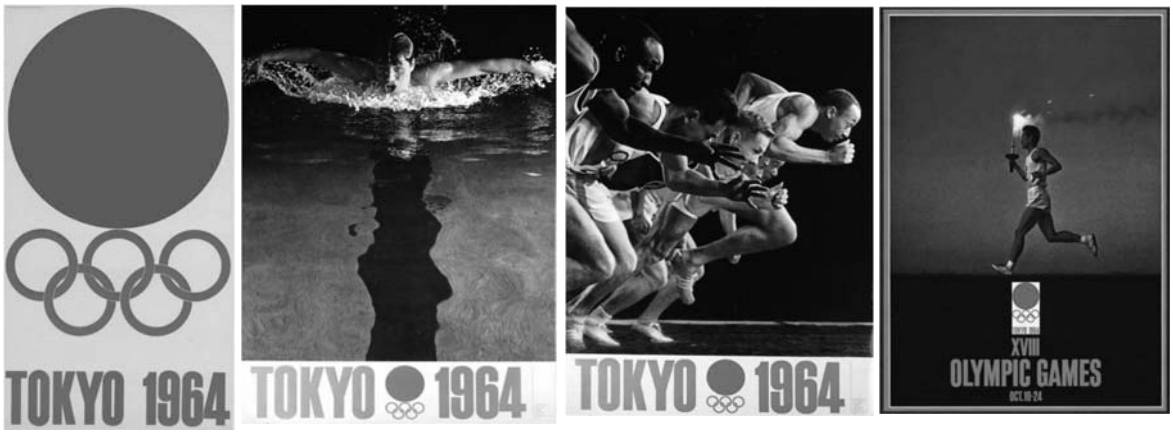
◆参加メダル・表

（岡本太郎デザイン）



◆参加メダル・裏

（田中一光デザイン）



◆公式ポスター・左より第１号、第２号、第３号、第４号ポスター

（ディレクター亀倉雄策、写真は早崎治）



◆聖火リレー用トーチ

（トーチホルダーは柳宗理のデザイン）



◆デレゲーションユニフォーム

（日本選手団の公式制服）



◆晴天用サッカーボール

（このボールは東京大会で実際に使用されたものである）

オリンピック大会の収蔵資料（1964 年東京大会以外）





◆日本初参加のユニフォームとスパイク

三島弥彦(陸上)

第５ 回ストックホルム大会/1912 年

第５ 回ストックホルム大会は、日本がオリンピックに初参加した記念すべき大会である。日本からは三島選手（陸上短距離）と金栗四三選手（マラソン）の２名が参加した。成績は振るわなかったが、日本オリンピック史の礎を築いた。



◆日本初のオリンピックメダル(銀)

熊谷一弥・柏尾誠一郎(テニス/ダブルス)

第７ 回アントワープ大会/1920 年

このメダルは熊谷・柏尾選手のものであり、日本初のオリンピックメダルである。熊谷選手はこの第７回アントワープ大会のテニスで、シングル、ダブルスともに銀メダルを獲得した。



◆オリンピックパリ大会唯一のメダル(銅)

内藤克俊(レスリング)

第８ 回パリ大会/1924 年

このメダルは第８ 回パリ大会で日本が獲得した唯一のメダルであり、レスリングの内藤選手のものである。日本のレスリング選手として初めてオリンピックに参加し、日本レスリング史上初のメダリストとなった。



◆男子用水着

第 10 回ロサンゼルス大会/1932 年

第 10 回ロサンゼルス大会の水着である。当時の水着は高価な絹製だったため、１人１ 着の支給がされず、皆で使い回したというエピソードがある。

オリンピック大会の収蔵資料（1964 年東京大会以外）



◆ユニフォーム　松永行(サッカー)

第 11 回ベルリン大会/1936 年

日本サッカーは、第 11 回ベルリン大会からオリンピックに参加。初出場１　回戦で優勝候補のスウェーデンと対戦し３対２で勝利。「ベルリンの奇跡」として今でも語り継がれており、その逆転ゴールを放ったのが、このユニフォームの松永選手である。



◆ユニフォームとシューズ
石井庄八(レスリング)

第 15 回ヘルシンキ大会/1952 年

日本が戦後初参加となった第 15 回ヘルシンキ大会で、レスリングの石井選手は金メダルを獲得し、日本人で唯一の金メダリストとなった。



◆柔道着　山下泰裕(無差別級・金メダル)

第 23 回ロサンゼルス大会/1984 年

この柔道着は、第 23 回ロサンゼルス大会で金メダルを獲得した山下選手のものである。山下選手は右足に怪我をしながらもエジプトのラシュワン選手と決勝戦を戦い、金メダルを獲得した。



◆コスチューム　稲田悦子(フィギュアスケート)

第 4 回ガルミッシュ・パルテンキルヘン大会/1936 年

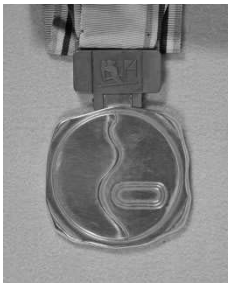
第 4 回ガルミッシュ・パルテンキルヘン大会に参加した稲田選手は、当時 12 歳であり、これは現在でも日本人オリンピック史上最年少出場記録となっている。また稲田選手は日本女子初の冬季オリンピック出場選手でもある。

オリンピック大会の収蔵資料（1964 年東京大会以外）



◆冬季オリンピック
初のメダル(銀)
猪谷千春(スキー回転)
第 7 回コルチナ・ダンペッツォ大会/1956 年

このメダルは第 7 回コルチナ・ダンペッツォ大会に出場し、回転で日本冬季史上初のメダリストになった猪谷選手のものである。



◆第 11 回冬季オリンピック
大会・札幌/1972 年
金メダル

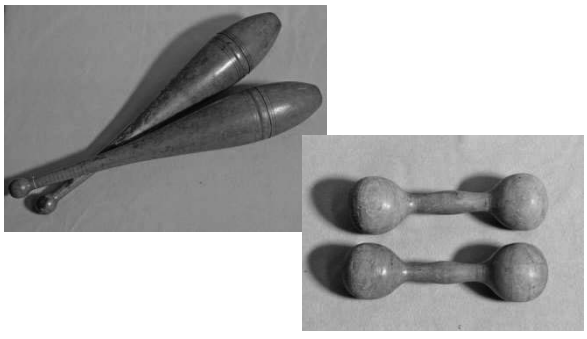
札幌オリンピックのメダルのデザインは田中一光が担当。右下の楕円がスケートリンク、縦の曲線がスキーのシュプール（滑り跡）を表現している。



◆第 18 回冬季オリンピック
大会・長野/1998 年
金メダル

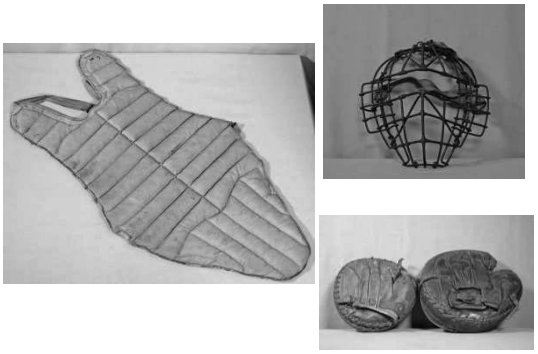
このメダルは長野の伝統工芸である木曽漆で製作された。篠塚正典がデザインを担当したエンブレム「スノーフラワー」は　七宝焼で描かれている

近代スポーツの歴史



◆明治時代の体操用具
（棍棒、木製亜鈴＝ダンベル）

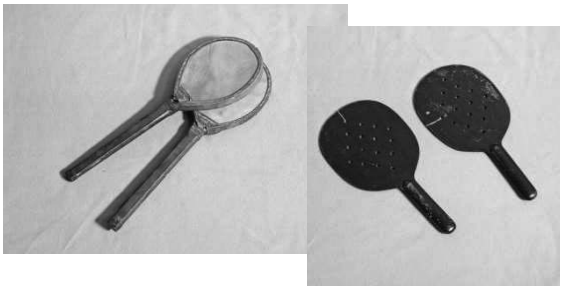
日本に近代スポーツが広がったのは体操からである。ダンベルは、以前は鈴が付いていたことから「鳴らない鈴＝dunb bell」と呼ばれ、日本ではその直訳で「唖鈴＝亜鈴＝アレイ」となった。



◆野球用具（明治～大正時代）

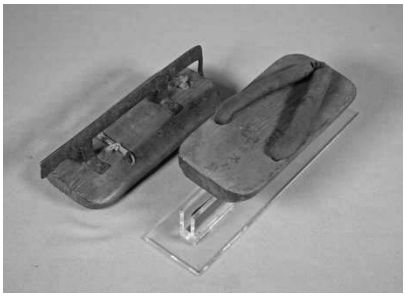
競技としての野球は、アメリカで 1845 年にルールが考案された。当時は 21 点先取、投手はアンダーハンド、ストライクゾーンは打者のリクエストによって決められた。
日本では 1873 年に初めて行われた。

近代スポーツの歴史



◆ピンポン（明治）と卓球用具（大正～昭和）

卓球＝テーブルテニスの起源は、雨天でテニスができないためクラブハウスでワインのコルクを丸くしてあそんだことからと言われている。ピンポンの商標登録問題が発生したのを機に「テーブルテニス」と名を変えた。1938 年まで日本にはラバー（ゴム）がなく、穴空きラケットや木、コルク、紙やすりなどのラケットで行われていた。



◆下駄式スケート

スケートが日本に紹介されたのは 1861 年だが、それ以前から冬の遊び用具として「竹ゾウリ」などがあった。これがベースとなって下駄スケートが考案され、諏訪湖（長野県）を中心に発展していった。



◆日本最古の鎖付きハンマー投げ用具
（1916 年）

このハンマーが開発されるまでは木のハンマーを使用していた。これは大阪・豊中競技場で行われた「第３回日本オリンピック大会」で使用されたものである。



◆参加メダル原型・手榴弾投げ競技
（第 12 回明治神宮競技大会/1941 年）

明治神宮競技大会は、日本における唯一の総合的なスポーツ大会として、1924 年から 1943 年までの間に 14 回開催された。当時は日中戦争、第２次世界大戦が迫ってきた時代であり、手榴弾競技だけでなく伝令競技、突撃競技などの「国防競技」がスポーツとして採用された。また参加メダルは、セトモノであった。

近代スポーツの歴史



◆世界記録証　古橋廣之進
（全米男子屋外水泳競技選手権大会/1949 年）

古橋選手は、第二次世界大戦後、数々の世界記録を樹立した。この世界記録証は、初の海外遠征であるアメリカ全米選手権で 800m自由形に出場した際に出した記録「9 分 35 秒 5」のものである。





◆マナスル初登頂時のピッケルと頂上の石
（1956 年）

このピッケルと石は 1956 年に世界に先駆け、ヒマラヤの高峰マナスルへの初登頂に成功した日本山岳会第 3 次登山隊（槙有恒隊長）のものである。



◆第 1 回東亜競技大会ポスター
（1940 年）

神武天皇即位紀元（皇紀）2600 年の記念行事の一環として 1940 年に予定されていた日本でのオリンピック大会の開催が、1938 年、日中戦争の激化により返上された。この五輪大会に代わる大会として、第 1 回東亜競技大会が、1940 年に東京と関西で開催された。



◆参加メダル
（第 1 回～第 72 回 国民体育大会）

終戦後、スポーツを通じて国民に夢や希望を与えるため、全国規模のスポーツ大会が実施された。これが国民体育大会であり、当館では 1946 年の第 1 回大会から 2017 年の第 72 回大会までのポスターと参加メダルが、概ね揃っている。

スポーツ芸術



◆秩父宮殿下登山像

朝倉文夫：作（1959 年頃）

秩父宮殿下は様々なスポーツを経験されたが、中でも登山は、ご幼少のころから生涯を通じて情熱を注がれ、登山家としても有名であった。この登山像は、スポーツ博物館の開館に合わせて制作された作品と考えられている。



◆御者像（馬車競技）

ファルビ・ビニョーリ（Farpi Vignoli）：作

1936 年の第 11 回ベルリンオリンピック芸術競技で金メダルとなった作品。古代オリンピックで行われていた馬車競技の一頭だて馬車を操る御者をモチーフとしている。



◆「ゴールするランナーたち」

ルドルフ＝ヘイマン・アイゼンメンガー（Rudolf Hermann Eisenmenger）：作

1936 年の第 11 回ベルリンオリンピック芸術競技の絵画部門で最優秀作品として銀メダル（金メダルは該当者なし）になった作品。学習院女子大学の協力により、2016 年に洗浄、修復された。



◆「スタート」

畑 正吉：作

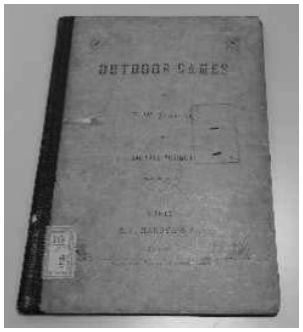
1936 年の第 11 回ベルリンオリンピック芸術競技の彫刻部門に、日本代表として出品された作品。走者たちのスタートを切る瞬間に焦点を合わせ、陸上競技のスピード感を表現した。

スポーツ図書・雑誌・パンフレット



『内外遊戯全書』全 15 編
出版 博文館、出版年［1899～1900（明治 32～33）年］

近代スポーツの解説書。
※15 冊全て揃っているのは日本で当館のみ



『Outdoor Games』F.W. Strange 著
出版：Z.P. Maruya、 出版年：1883（明治 16）年

国内刊行で最初にサッカーを紹介した本。
※抄訳『西洋戸外遊戯法』下村泰大編（泰盛館，1885）も所蔵あり



『アサヒ・スポーツ』1 巻 1 号－21 巻 11 号

1923（大正 12）年～1943（昭和 18）年に発行された戦前のスポーツ総合雑誌。
※部分的に欠号はあるが、450 冊以上所蔵している館は国内では当館のみ。



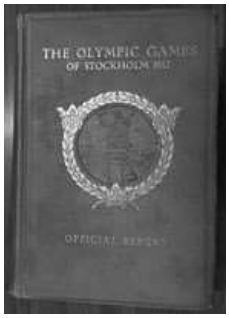
『ローンテニス』1 巻 1 号－18 巻 10 号

1925（大正 14）年～1943（昭和 18）年に発行された戦前のテニス専門雑誌。
※欠号なく所蔵している館は国内では当館のみ。



『傷兵慰問體育運動大會パンフレット』

1939（昭和 14）年に日中戦争の傷病兵が競った国内初とみられる障害者スポーツ大会のパンフレット。



『The Olympic Games of Stockholm 1912 Official Report』（第 5 回ストックホルム大会）

日本がオリンピックに初めて参加した第 5 回ストックホルム大会の公式報告書（英語版）。